

立教池袋 2020年度の報告

主な学友会活動報告

- 文芸部(高)第23回俳句甲子園(全国大会)入選2名
センバツ!全国高校生即吟俳句選手権4位入賞
- 科学部(中)「第64回日本学生科学賞東京都審査会」最優秀賞、奨励賞
- 鉄道研究部(高)「第12回全国高等学校鉄道模型コンテスト」で優秀賞、ベストムービー賞、ベストリアル情景賞
- 美術部(中)第14回「JAMCA PRIZE 2020 絵画/イラストコンテスト」中学生部門グランプリ
第14回 アートクラブグランプリ in SAKAI 全国中学校美術部作品展佳作、株式会社トポ主催第35回「WE LOVE トポ」絵画コンクール 銅賞
- 吹奏楽部(中高)第44回東京都高等学校アンサンブルコンテスト金賞
- 数理研究部(中高)2020年度日経STOCKリーグ 中高合わせて5チームが全国入選
- 山岳スキー部(中)全国中学校スキー大会GS4位
全日本ジュニアスキー選手権大会 SG5位
全日本選抜ジュニアスキー選手権大会 SG8位
FISチルドレンカップU16アルプス世界大会出場(日本代表)、FISユース ジャパンカップU16出場(SAJ推薦)
- 陸上競技部(高)関東新人大会800mにて8位入賞
- ゴルフ部(中)全国中学校ゴルフ選手権特別大会団体の部 全国大会第2位
(高)関東高等学校ゴルフ選手権冬季大会出場(個人・団体)
- 水泳部(中)中学校47都道府県通信水泳競技大会 自由形200m、400m優勝

立教新座 2020年度の報告

主な学友会活動報告

- サイクル部(中)2020年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会 U-15 3km個人パーシュート1位、1kmタイムトライアル2位
(高)令和2年度高等学校自転車競技新人大会県大会スクラッチ2位
- 剣道部(高)令和2年度 第65回埼玉県剣道大会 優勝
令和2年度埼玉県学校総合体育大会 男子団体戦1位
- フェンシング部(高)令和2年度埼玉県フェンシング新人大会 フルレー個人対抗 優勝・2・3・4位、サーブル 準優勝
エペ個人対抗 優勝、フルレー学校対抗 優勝、エペ学校対抗 優勝
- ボート部(高)令和2年度埼玉県学校総合体育大会ボート競技男子シングルスカル優勝、第98回全日本ボート選手権大会男子シングルスカル5位
- 陸上競技部(高)令和2年度埼玉県高校新人大会4x100mリレー1位
- テニス部(中)令和2年度 新人体育大会埼玉県大会 男子団体 準優勝
(高)全国私学テニス選手権大会 北関東地区予選 男子団体5位
- アメリカンフットボール部(高)第51回全国高等学校アメリカンフットボール大会予選第38回秋季埼玉・千葉・茨城地区大会1位
- 空手道部(高)令和2年度埼玉県高等学校新人大会男子団体形の部2位
- スキー部(高)令和2年度学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会県予選会 学校対抗男子5位
- 生物部(高)令和2年度(2020)科学展 優秀賞
- 映画研究会(高)第15回映画甲子園 秀作

2020年度 教職員退職者・就任者・逝去者 (敬称略) 2020年4月1日から2021年3月31日まで

立教池袋		立教新座	
退職者 飯高雅彦 (国語科)	逝去者 川崎 仁 (元、英語科)	就任者 田中 稜 (国語科)	逝去者 砂入恒夫 (元、社会科)
就任者 最上滉平 (保健体育科)			金勝理介 (元、英語科)

新型コロナへの対応

3月2日から5月17日までを休校とし、6月15日から分散登校で学校生活を再開。9月1日以降は、授業時間を通常形式に戻して一斉登校を行いました。ICTを活用した情報共有・発信、オンライン授業、学習支援など、さまざまな対策を講じています。

遠隔でもきめ細やかな学習支援を展開 — オンライン授業

事前に各家庭のネットワーク環境をヒアリングした上で、5月18日から7月11日の期間はオンライン授業を実施。授業の内容・形態に合わせてライブ・動画配信を使い分け、課題の提出もオンライン上で行いました。

学校行事

入学式は、中・高とも6月に延期し、参列者を限定しクラスごとに実施。校外学習(中3)は、時期を変更して実施し、高2は、2022年3月に実施予定。体育祭は中止に。R.I.F.は、オンラインで開催。生徒達がWEBサイト上で、学友会や委員会のPR動画を制作・公開した他、「動画大賞」をWEB投票で決定しました。

特別時間割による対面授業の再開

6月15日から分散登校がスタートし、22日からは対面による授業が再開しました(オンライン授業も継続して実施)。感染リスクを抑えることを第一に考え、8月8日の終業礼拝までハーフクラスでの分散登校を行いました。クラブ活動は時間を短縮して段階的に再開しました。



新型コロナへの対応

3月2日から5月6日まで休校措置をとり、6月15日からはオンライン授業を継続しつつ対面授業を再開しました。今後も生徒の健康を守ることを第一に考え、さまざまな対策を講じた上で、新しい日常における学びや課外活動のあり方を柔軟に検討し、実施していきます。

新しい授業形式に対応した環境づくりを—オンライン授業

4月はオンライン授業スタートに向けた準備期間とし、各家庭の学習環境の調査やオンライン上での面談、授業内容の計画などに取り組みました。準備期間を経て、5月7日から7月11日までオンライン授業を実施。また、高校3年の卒業論文執筆用に図書宅配貸し出しなどの学習支援も行いました。5月11日からは毎週、チャペルアワーをライブ配信。

学校行事

中高卒業式は、卒業生と教職員のみが参加し、他は校内放送で実施。入学式や校外研修旅行などの行事は、感染拡大防止の観点から中止しました。終業礼拝・終業式も校内放送で実施。始業礼拝は、オンライン上で実施、S.P.F.に代わり、オンラインで課外活動の発表会を実施しました。

感染防止に配慮し、6月から授業再開

6月4日に新入生が初登校、15日から全学年で分散登校を開始し、クラスの半数が1日おきに登校し、対面授業も再開しました。



旧制立教中学校および、立教中学校・高等学校の初期の校舎

ご挨拶

立教中学校・高等学校同窓会 会長 小林芳夫



日頃は立教中学校・高等学校同窓会の活動にご理解・ご支援を賜り、また、昨年は新型コロナウイルスの影響による定期総会中止にも関わらず、前年を上回る維持会費のご協力を頂き誠にありがとうございました。同窓会活動もより一層発展しており、皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。本年の定期総会につきましても新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、皆様の安全安心を第一優先と捉え、昨年を引き続き中止と致しました。何卒ご理解を賜ります様、お願い申し上げます。また、本年は立教中学校・高等学校同窓会設立70周年の記念すべき年です。この記念式典(祝賀会)につきましても、今般の状況を受け、中止と致しました。なお、立教中学校・高等学校同窓会設立70周年記念感謝礼拝につきましては動画配信を予定しております。同窓会70年の歴史の中でも、このような先行き不透明な状況はありませんでしたが、これを困難と捉えず、乗り越えるための試練、挑戦と捉えて、立教スピリッツを発揮し、皆様と共に前に進んでいきたいと思っております。時節柄、皆様の健康をご祈念すると共に、引き続き同窓会活動へのご協力ご支援を賜ります様、心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

立教学院 理事長 戸井田和彦



この度は中高同窓会設立70周年、誠におめでとうございます。平素より池袋・新座中高へ格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨秋、私は故白石典義前理事長の後を引き継ぎ、理事長に就任いたしました。立教大学を卒業後、企業人として長い歳月を過ごし、2018年に立教学院常務理事に就いて以来、両校と深く関わる機会をいただいております。その中で、立教学院の一貫連携教育の中核を担う両校が持つ、それぞれの素晴らしい特色を再認識しています。特に、知的好奇心と身体的エネルギーに満ちた生徒たちが、可能性を多方面に存分に伸ばせるよう整えられた環境は、大変恵まれたものです。今後も最高品質の教育体制を模索しつつ、今般のコロナ禍のような急速な社会変容に対して適切に対応・変革していくことが、学院の重要な使命です。この使命を確実に果たし、両校のさらなる発展に尽力してまいります。

創立147周年を迎える本学院の長い歴史の中で、立教は「キリスト教に基づく教育」を通じ、他者への思いやりと人々との協働を大切にしているリーダーを社会へ輩出してきました。両校の生徒たちがこの素晴らしい伝統を引き継ぎ、未来に向かって飛躍することを切に願っております。

会員の皆様におかれましては、今後とも立教学院と両校にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、貴会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心より祈念いたします。

立教中学校・高等学校同窓会設立70周年に寄せて

立教大学 総長 西原廉太



立教中学校・高等学校同窓会設立70周年、誠におめでとうございます。

立教学院は、2024年には150周年を迎える歴史を誇っています。しかしながら、立教学院における一貫教育をめぐる議論は、実は、1990年代にようやく本格的に始められたと言っても過言ではありません。1996年、立教学院院長を兼務されていた塚田理総長は、「建学の精神」に立ち帰った時に、「一貫教育」とは、「小学校から大学まで全員がエスカレーターに乗って無事大学を卒業できること」ではなく、立教学院が目指す一貫教育はむしろ、「キリスト教に基づく人格教育を、それぞれの学校において全力を尽くすこと」であり、「人間的価値、意味、目的にかかわる問題と直面しないのであれば、キリスト教学校としての存在理由はない」と明言されています。

このような問題意識の中で、1998年に、答申「立教学院一貫連携教育の目標と構想」（寺崎昌男先生座長）が公表され、これまでの「一貫教育」という言葉に代えて、「一貫連携教育」という名称が提示されたのでした。

今後は、新座高校、池袋高校とも一層の連携を深め、池袋・新座両校からの進学者が、立教大学全体にとっての中核的存在、文字どおりの「アンバサダー」となるように尽力してまいります。

立教中学校・高等学校同窓会の益々のご発展を祈念しますと共に、引き続きのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

立教池袋中学校・高等学校 校長 豊田由貴夫



立教中学校・高等学校同窓会設立70周年を心からお祝い申し上げます。この70年間、中学・高校の歩みを支えてくださった同窓会の方々に深く感謝いたします。

先日、『立教大学の歴史』と『立教中学校100年史』の2冊の本を改めて読む機会がありました。この2冊は、それぞれ立教大学と立教中学校の歴史を、資料と多くの方の証言をもって再構成したものです。基本的に語られているのは大学と中学校のことなのですが、小学校、高等学校との関係も触れられており、立教中高の歴史が生き生きと語られています。そこからは、教員と生徒との距離の近さ、上級生から下級生へと学校の雰囲気や伝えられる様子、また教員たちの教育にける熱い思いが伝わってきます。

最近、校長としての挨拶で言うことがあります。社会から「立教の人は協調性に優れている、協調性を持ちながらリーダーシップを発揮することができる」という評価をいただいている、今後も学校としてそのような人物を育てたいと、挨拶でよく言っています。そのような立教の伝統を作られてきた同窓会の方々に深く感謝いたします。

今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

立教新座中学校・高等学校 校長 佐藤忠博



中高同窓会創立70周年、心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大という、私たちはこれまで経験したことのない困難な状況下にあります。生徒の命を守ること、学びを止めないこと、このことを常に念頭に置いて、私たちのできることを精一杯行う毎日が続いております。

変えるべきものを変える勇気と、変えるべきでないものを受け入れる冷静さと、変えるべきものと変えることのできないものを見分ける知恵が、まさに今求められているように思います。それらを与えてくださるよう神様に祈りつつ、日々励んで参りたいと思います。

そのような中、学校を愛し、支えてくださる同窓会の皆様がいっぱいいますこと、とても心強く感じております。いつも温かくお見守りくださいますこと、感謝申し上げます。

70年の長きにわたり、素晴らしい方々を輩出してきた学校を、大切に守り、育み、次の世代へと橋渡しをしていくこと、そして何より、希望に胸をくまらせる若い力を育てていくこと、その大きな使命を私たちは担っているのだと、この素晴らしい節目の年に、気持ちを新たにしております。

どうぞ今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願いいたします。